

資 料

平成20年度大学入試センター試験英語リスニングテストにおける
不具合等の申出があった機器の検証結果等について

大学入試センター

1. はじめに

大学入試センターでは、平成20年1月に行った英語リスニングテストにおいて不具合等の申出があった機器の調査分析を行った。

2. 機器の検証結果

検証の対象としたのは、「解答中に不具合等の申出があったもの」142台及び「解答開始前の作動確認中に不具合等の申出があり、機器を交換したもの」194台。ここでは主に「解答中に不具合等の申出があったもの」の検証結果について述べる。(詳細は平成20年4月28日公表の資料を参照)

主な原因は、「再生ボタンの長押し失敗」(15台)と、「受験者が機器の不具合と受けとめたと考えられるもの」(89台)で、あわせて全体の7割を占めている。この中には、問題音声中の無音部を故障とってしまったものな

どが含まれていると思われる。

昨年度の主な原因は、「受験者が機器の不具合と受けとめたと考えられるもの」、「再生ボタンの長押し失敗」だったが、これらは大幅に減少している。

昨年度の検証結果を踏まえて講じた3つのボタンの長押し対策が効果を発揮したものと考えている。その結果、解答開始前にも「長押し失敗」が若干見られた(20台)が、再開テストにつながる再生時における失敗は大幅に減少した。

3. 今後の取組等

検証結果を踏まえた上で、引き続き、機器に起因する不具合を減少させるため、製造時の品質管理の徹底、検査の強化を一層高めるよう努力するとともに、ホームページ等の操作ガイドを活用して、受験者に対する機器の操作方法の事前周知に努めていきたい。

＜平成20年度大学入試センター試験英語リスニングテストにおける不具合等の申出があった機器の検証結果等について＞（平成20年4月28日公表）

I 解答中に不具合等の申出があったもの

1 検証対象機器台数 142台

（参考）① 解答中に不具合等の申出があった機器台数 185台
（注）上記185台のうち、机上からの落下等の申出により交換した43台は対象から除いた。
② リスニングテスト受験者数 491,056人

2 検証方法

不具合の申出があった機器について、メーカーが検証作業を実施。
すべての機器について大学入試センター職員もヒアリング検査を実施。

3 検証結果

（単位：台、括弧内は昨年度）

A 機器の製造等に起因する不具合	① IC不良	9（6）
	② 部品不良（IC以外）	2（0）
	③ イヤホン不良	4（2）
	小 計	15（8）
B 機器の使用環境等に起因するもの	① 音声メモリーにゴミが付着	9（16）
	② イヤホン差込部の酸化物による接触不良	8（1）
	小 計	17（17）
C 機器に起因する不具合ではなく、受験者の使用方法に起因するもの等	① 再生ボタンの長押し失敗	15（47）
	② 受験者が機器の不具合と受けとめたと考えられるもの	89（275）
	③ 検証では不具合が再現せず、かつ、申出症状等から原因の推定もできなかったもの	6（9）
	小 計	110（331）
合 計		142（356）

II 解答開始前の作動確認中に不具合等の申出があり、機器を交換したもの

検証対象機器台数 194台

（参考）解答開始前の交換機器台数 290台
（注）上記290台のうち、机上からの落下等の申出により交換した96台は対象から除いた。

（単位：台、括弧内は昨年度）

A 機器の製造等に起因する不具合	① IC不良	5（1）
	② 部品不良（IC以外）	2（4）
	③ イヤホン不良	20（13）
	小 計	27（18）
B 機器の使用環境等に起因するもの	① 音声メモリーにゴミが付着	54（248）
	② イヤホン差込部の酸化物による接触不良	8（5）
	小 計	62（253）
C 機器に起因する不具合ではなく、受験者の使用方法に起因するもの等	① 電源・確認ボタンの長押し失敗	20（376）
	② 音声メモリー挿入不完全	24（127）
	③ 受験者が機器の不具合と受けとめたと考えられるもの	47（249）
	④ 検証では不具合が再現せず、かつ、申出症状等から原因の推定もできなかったもの	14（67）
	小 計	105（819）
合 計		194（1090）

III 改善案

引き続き、機器に起因する不具合を減少させるため、製造時の品質管理の徹底、検査の強化を一層高めるよう努力するとともに、ホームページ等を活用し、受験者に対する機器の操作方法の事前周知に努める。